

〔科目名〕 <p style="text-align: center;">教職概論</p>	〔単位数〕 <p style="text-align: center;">2 単位</p>	〔科目区分〕 <p style="text-align: center;">教職課程(必修科目)</p>				
〔担当者〕 <p style="text-align: center;">西村 吉弘</p>	〔オフィス・アワー〕 時間:事前にメールでアポを取る。 場所:619研究室	〔授業の方法〕 <p style="text-align: center;">講義及び演習</p>				
〔科目の概要〕 <p>基本的な教職の理念、歴史、制度、実態など多面的な視点から学び、教職に対する理解を構造的に捉えることや、自己の教師としての自覚を深めることを目的とする。</p> <p>児童生徒として見てきた教師像に終始することなく、教師に課される職務を取り巻く構成や獲得すべき技術、更に刻々と変化する社会からの要請等、多面的に教職を捉えることによって、教師の全体像を掴むことが重要である。</p> <p>本授業では、現代の日本の教師に求められる能力や職務の実態を学ぶことにより、その重要性や課題、問題点を総合的に理解することを試みる。</p>						
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>基本的に、前半は講義形式の授業を行う。また、適宜アクティブラーニングの手法を活用し、授業を実施する。毎回の授業の後半に、講義内容に関連した検討課題を出す。よって、講義で学習したことを活かし、丁寧にアウトプットできるよう努めてもらいたい。これらの学習を通して、教師に要請される能力の育成や獲得に努め、専門知識の修得と共に、論理的思考力の獲得、他の受講者との学びによる協働関係の構築等の能力の獲得も目指す。</p> <p>尚、本授業で教育学における基礎的事項を学習することで、更に深めた内容を網羅的に押さえることを教育原理で、政策や制度については教育制度論で、教育課程や学習指導要領については教育課程論で、それぞれ深化を図ることになる。</p>						
〔科目の到達目標〕 <p>本授業では、学校の教師という職業の実態を理解し、自身が目指す教師像と、そこへ至るために必要な力量形成について、具体的に考えることができることを目指す。そのため、以下の到達目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 職務内容や使命、意義を理解する。 2 社会的な背景を踏まえ、日本の教師の特性と課題を理解する。 3 めざす教師像を自らアウトプットすることができ、また、そのための力量形成を追究することができる。 						
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕						
学部				学科		
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2	DP3
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>全体に還元した方が良いと思われる内容のものについては、適宜案内する。</p>						
〔教科書〕 <p>久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>						
〔指定図書〕 <p>岩田康之・高野和子編著『教職論』学文社(2017)</p>						
〔参考書〕 <p>毎回の授業で、講義内容に関連した参考文献リストを作成し紹介する。より学習を深めたい場合は、参考にしてもらいたい。</p>						
〔前提科目〕						

<p>本授業は、教職の中で最も基本的な科目である。よって、本授業の内容を他の関連科目に活かせるように学習することを望む。</p>	
<p>[学修の課題、評価の方法] (テスト、レポート等)</p> <p>基本的に、期末試験とレポートの合計で判断する。尚、授業態度や授業時に指示する課題の取り組み方が芳しくない場合、期末試験・レポートの合計点から減点することがある。試験結果やレポートの傾向については、web 上もしくは授業内で解説を行う。</p> <p>評価基準の割合：期末試験 70 点、レポート 20 点。平常点 10 点</p>	
<p>[教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望]</p> <p>予習、復習を丁寧に行うこと。特に、復習に時間を割き、知識を体系的に捉えられるようにしておくこと。また、各回で出題する検討課題に対して、自身の見解を構築できるように努めること。</p>	
<p>[実務経歴] 特記事項なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第 1 回	<p>テーマ (何を学ぶか)：教育学と教職論</p> <p>内 容：教育学研究における「教師」の存在とは何か検討する。教育を「学ぶ側」から「教える側」へと捉え直し、その転換を考える。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第 2 回	<p>テーマ (何を学ぶか)：教育実践を支える教育法規</p> <p>内 容：日本は法治国家であり、様々な法的裏付けによって教育の仕組みも成立している。その根拠法の重要性に触れる。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第 3 回	<p>テーマ (何を学ぶか)：教員養成・採用・研修の一体化</p> <p>内 容：今日要請されている「知識基盤社会」とは何か、理解を深める。更に、キーコンピテンシー (主要能力) の 3 つの広域カテゴリーを学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第 4 回	<p>テーマ (何を学ぶか)：チームとしての学校</p> <p>内 容：「チーム」が求められる背景要因を、深く学ぶ。また、教職員以外の専門家 (スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等) や、学校支援ボランティアの役割を考える。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第 5 回	<p>テーマ (何を学ぶか)：児童虐待問題と学校・教職員の役割</p> <p>内 容：児童福祉法の理念を踏まえた、児童虐待を捉える視点を養う。そして、虐待問題に対して学校が持つ利点と学校・教職員の役割について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第 6 回	<p>テーマ (何を学ぶか)：学校と学童保育・放課後子ども教室との連携</p> <p>内 容：学童保育の法制化について、仕組みを学ぶ。また、放課後施策への展開と課題について考える。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第 7 回	<p>テーマ (何を学ぶか)：いじめ問題への対応</p> <p>内 容：いじめの定義の変遷を、概観する。いじめの未然防止 (居場所づくり、絆づくり、早期発見) の重要性を考え、教職員の対応の在り方を検討する。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>

第8回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 安全・安心の学校づくり 内 容 : 学校事故に関するデータから、教師の法的責任の構造を学ぶ。また、危機管理の重要性について考える。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第9回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 教職における合意形成の在り方①ーダイヤモンドランキングによる演習 内 容 : 教師間の同僚性や協働関係の重要性を学ぶため、ダイヤモンドランキングの手法を用い、アクティブラーニングを重視したワークを行う。</p> <p>教科書・指定図書 なし。ワークシートを配布する。</p>
第10回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 日本の教師の役割と特性 内 容 : 教師の特性や、専門性の変容について概観する。特に、日本に特有の「無境界性、無限定性」の功罪について深く検討する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 教師の職能成長 内 容 : 教師が、専門職として成長していくための仕組みを学ぶ。また、その一環としての研修の具体的取り組みを、教職員センターの事例から検討する。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第12回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 教職への学び - 教員養成の学び全体から考える 内 容 : 教職課程の構造を、「理論」と「実践」の2つの軸から概観する。また、「省察」の概念を把握し、教員養成に省察が位置づけられた視点を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第13回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 教師の力量形成ー学び続ける教師 内 容 : 省察による実践知の体系化の重要性について、「教師自身による学び」の点から検討する。また、非正規雇用者の増加による「臨採」、「非常勤講師」の雇用やその問題点について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第14回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 教職における合意形成の在り方②ーダイヤモンドランキングによる演習 内 容 : 第9回の①につづき、2回目の実施となる。ここでは、更に合意形成の在り方を意識し、多様な見解が潜在化していること、それを集約することの重要性について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書 なし。ワークシートを配布する。</p>
第15回	<p>テーマ (何を学ぶか) : まとめ - ふり返し (リフレクション) を踏まえて 内 容 : これまでの学習内容について、レジュメ、配布資料、教科書等を用い、授業全般をふり返る。そして、半期の学習を通して、「教育」、「教職」に対するイメージや考え方が、どの程度変化したのか、自己理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 これまでに配布したレジュメや資料を、全て持参する。</p>
試験	<p>期末テスト : 筆記試験の実施。</p>